

外国語研究部 教科総論

寺尾 太地 山中 隆行 宮城 健太

1 外国語活動・外国語科における「学びをつなぐ」とは

外国語科・外国活動では、子供が目的や相手意識などを持ち、Message（子供の本当に伝えたいこと）に応じて、既習の語句や表現などを使い分け、言語活動を行っていく。教師は、単元構成の工夫や、振り返りの工夫を行うことで、手立てと教材をつなぎ、言語活動の充実を図る。これらを通して、子供が、英語でコミュニケーションを行いながら、互いの共通点や意外な点を発見し、他者との相互理解を深めていく姿を「学びをつなぐ姿」と捉えている。

2 外国語活動・外国語科の見方・考え方

外国語活動・外国語科の見方・考え方とは「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。外国語活動・外国語科は、この外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地（外国語活動）・基礎（外国語科）となる資質・能力を育成することを目指している。コミュニケーション能力は、既習事項を生かしながら新しい言葉や表現を獲得し、目的や場面、状況に合わせて言語活動を行うことで育っていく。外国語活動・外国語科は、子供が相手意識・目的意識をもって互いの考えや気持ちを伝え合いながらおこなう学習である。

3 外国語活動・外国語科における「知識・技能」，「思考力・表現力・判断力等」

外国語活動・外国語科における「知識・技能」とは、コミュニケーションにおいて言葉や表現を正しく使ったり理解したりできることを指す。また、「思考力・判断力・表現力」とは、目的や場面・状況に合わせて自分や相手の考えや気持ちを表現したり読み取ったりすることを指す。

4 授業づくりのポイント

(1) 単元構成の工夫

単元構成シートなどを用いて、単元の目標や評価、ゴールを踏まえて単元の最後から第1時にむけて授業を作っていく。その際、子供の興味・関心を踏まえてより必然性の高まるような単元のゴールを設定する。

(2) 言語活動の充実

自分の考えや本当の気持ちを伝え合えるよう、Small talkなどの言語活動の場を充実させる。

(3) 振り返りの工夫

単元の中で自分の成長がわかるよう、Can-doと連動して振り返りを蓄積していく。

第5学年外国語科授業デザインシート

授業者：宮城健太

ALT：Nakagawa Tania Hitomi

1 育みたい資質・能力

- (1) 単元のゴールや伝える目的を意識して Message（子供の本当に伝えたいこと）を伝え合い、言語活動を通して自分の考えや伝え方を再構築していく力。
- (2) 毎時間自分の考えを英語で伝えるために、相手の反応等を通して自分の表現の「良さ」や「不十分さ」に具体的に気づき、仲間や教師、ALT、ICTなどを活用して自ら修正する力。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 She [He] is～./She [He] can～.の表現について理解している。 〈技能〉 相手の尊敬する人について具体的な情報を聞き取る技能を身につけている。	相手の尊敬する人の良さやすごさを知るために、その人物のできることや性格、特徴など、具体的な情報を聞き取っている。	相手の尊敬する人の良さやすごさを知るために、その人物のできることや性格、特徴など、具体的な情報について、粘り強く聞き取ろうとしている。
話すこと（発表）	〈知識〉 She [He] is～./She [He] can～.の表現について理解している。 〈技能〉 自分の尊敬する人について She [He] is～./She [He] can～.の表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。	自分の尊敬する人の良さやすごさを伝えるために、その人のできることや性格、特徴などについて、自分の考えや気持ちなどを話している。	自分の尊敬する人について伝え合うために、自分の英語表現の「良さ」あるいは「不十分さ」に具体的に気づき、仲間や教師、ALT、ICTなどを活用し、自ら表現を修正して話そうとしている。

3 本時について

単元名	Lesson6:My hero あこがれの人をしようかいしよう (Junior Sunshine 5)
本時	尊敬する人の良さやすごさがより伝わる伝え方を試してみよう (4/6)
本時の目標	尊敬する人の良さやすごさについて友達と伝え合う活動を通して、試行錯誤しながらより良い伝え方を再検討する。
本時の評価	自分の尊敬する人の特徴や良さ、すごさを伝えるために、その人のできることや性格、特徴などについて、自分の考えや気持ちなどを話している。【知・技】【思・判・表】

(1) 導入

- ① Small Talk：(省く可能性あり)
- ② 「すごい！いいね！と思った友達のヒーロー」を交流する。(内容面の気づきの交流)

Goal: 尊敬する人の良さやすごさがより伝わる伝え方を試してみよう。

(2) 展開

- ① より良い伝え方について前時までに気づいたことを共有する。(言語面の気づきの共有)
- ② クラスの友達と伝えあってみる。
- ③ 困ったことや気づいたことを全体で共有する。(言語面の気づきの共有)
- ④ 相手を変えて、②～③をもう一度繰り返す
- ⑤ 「すごい！いいね！と思った友達のヒーロー」を交流する。(内容面の気づきの交流)

(3) 終末

より良い伝え方ができたか（言語面）、友達のヒーローを聞いて感じたこと（内容面）をふりかえる。

4 授業者より

子供が Message(子供の本当に伝えたいこと)を伝え合い、互いに発見や驚きを楽しむことを大切に、授業づくりを行なっている。そのような楽しいコミュニケーション活動を通して、基礎となる言語材料を知識・技能として習得したり、目的、場面・状況に応じて既習表現を活用したりする力を身につけさせたい。また今年度は、「やりとりの際の英語量を増やす」ことを共同研究のテーマとしている。そこで、教師が指定した言語材料だけをくり返し練習させて定着を図るような学習ではなく、Message を伝え合う活動を行う中で、インプットもアウトプットも十分な量を確保し、子供一人一人が必要感を持って試行錯誤を繰り返し、習得していく学習を目指したい。

本単元では、新出の言語材料は扱わず、She [He] is～./She [He] can～.などの既習表現と、既有的語彙 (run fast./good ~ player./性格を表す言葉/職業を表す言葉など) を組み合わせながら、自分の尊敬する人を紹介することを目標としている。

単元の導入では、「尊敬する人を発表する」というゴールに意欲を持つ子供が多く、「尊敬する人がたくさんいるから、3人くらい発表したい」という子供もいた。ハルキ(仮名)は「尊敬する人がいないんだよな～」といいながらも毎日考え、第2時までには尊敬する人を決めてきていた。そして第2時でハルキと伝え合いをした子供の振り返りには、ハルキの尊敬する人のすごさに驚いている記述が見られた。学級全体にその事を伝えると、ハルキは嬉しそうに笑っていた。尊敬する人を伝えるというゴールが、子供の学ぶ意欲に繋がっているといえる。

一方で、第2時で実際に自分の尊敬する人について伝え合ってみて、「難しい」「うまく伝えることができなかった」という振り返りを書いた児童も多くいた。これは、伝え方について一人一人が自分なりの課題を持ったことを意味すると考えている。そしてこれから、第3時、第4時の中で、子供が互いに協働しながら、どのようにすれば知っている表現でより良く伝え合うことができるのかを試行錯誤していく時間をしっかりと確保してあげたい。

本時では、子供が自らより良い表現に気づくための手立てとして、次の3つを行う。①伝えたい!という意欲を維持させるために、授業の始めや終わりにおいて「すごい!いいね!と思った友達のヒーロー」の交流を大切にする。②子供が目標に向かって、自分に合う方法を自己決定しながら活動できる時間を確保する。③一人一人が、自分に必要だと思う基本表現を何度でも自由に聞けるように、クロームブックやALTを活用する。

5 単元計画

時	学習活動
1	単元のゴールを知り、自分のヒーローを考えたり、友達のヒーローを予想したりする。
2	ALTや教科書の登場人物のヒーローについて聞き、尊敬する人を伝えるための伝え方についての見通しを持つ。
3	尊敬する人の良さやすごさについて友達と伝え合う活動を通して、試行錯誤しながらより良い伝え方を検討する。
4 本時	尊敬する人の良さやすごさについて友達と伝え合う活動を通して、試行錯誤しながらより良い伝え方を再検討する。
5	発表の準備を行う。 尊敬する人の良さやすごさが伝わるように、クラスの仲間と伝え合う。①
6	尊敬する人の良さやすごさが伝わるように、クラスの仲間と伝え合う。② 単元の振り返りを行う。